

—すべては、素晴らしい未来のために—

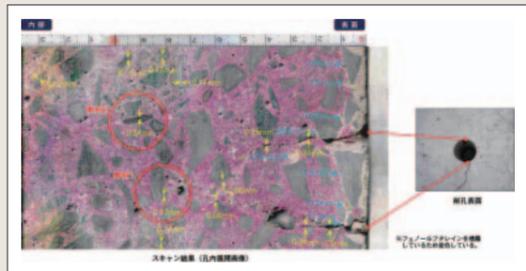
株式会社 計測リサーチコンサルタント



所在地：〒732-0029 広島市東区福田1丁目665-1
 TEL：082-899-5471
 FAX：082-899-5478
 URL：http://www.krcnet.co.jp/
 従業員：93名
 設立：1972年
 代表者：代表取締役社長 岡本 卓慈
 拠 点：東京、名古屋、大阪、岡山、博多



スティックスキャナ



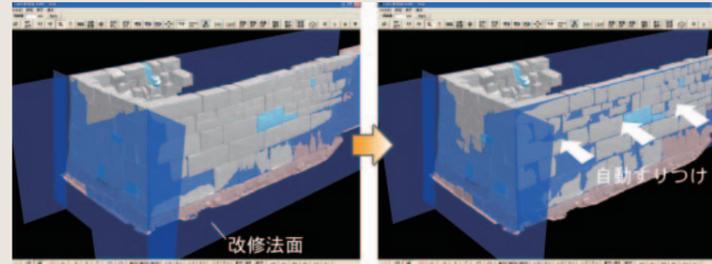
スティックスキャナによる調査結果



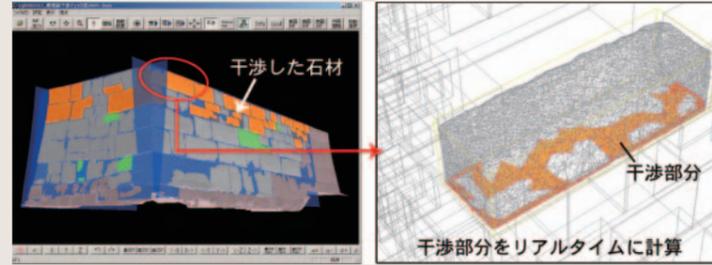
EMセンサーを設置した斜張橋



EMセンサーの設置状況(斜張橋ケーブルの張力管理)



3Dレーザースキャナを利用した「石垣修復支援システム」イメージ
 石垣面を改修法面に沿って自動すりつけ



3Dレーザースキャナを利用した「石垣修復支援システム」イメージ
 石材間の干渉解析



SHMII-3 2007最優秀論文賞を受賞



サイレントロボ設置状況



WEBサイトなど情報公開ツールのデザイン例
 (ひろしまWEB博物館)

経営

昭和47年に創業して以来、小規模ながらも社員が力をあわせて元気に頑張っております。近年のような逆境の中においても、皆様のご指導ご鞭撻に支えられ、そして一人一人の頑張りによって前進を続けております。

百年に一度と言われる世界金融危機で、日本の経済が混沌とし先行きの予測が困難になっています。しかし建設産業は、平成のバブル経済が崩壊してから今日まで十数年間に亘って、他産業とは独立して縮小の道を歩んでまいりました。つまり、建設産業では、既に百年を越す歴史の中で、重大な危機が十年以上も続いているわけです。この間、当社の業績、企業規模が安定していることが、最近にわかに評価されております。この評価は、創業来、オリジナルな経営姿勢と、社員が一丸となりバリエーションに富んだ技術で競争し、常に変革してきた成果だと考えております。

そんな当社の経営方針は、「志・地・改・健」です。「志」とは技術をもって、世のため人のためになるという志を持ち、社内外の交流を通じて人格、見識を磨

くということです。「地」は、地面に根ざした雑草のごとく逞しく「資本と経営と労働の顔」が見える企業として、自主と独立の精神に富んだ民主的経営を行うこと。「改」は常に変化する社会情勢を知り、先見性に富んだ行動を考え、企業の改革を継続的に行うこと。そして「健」は、企業は社会であり、ここに所属する人々が安全で安心な生活を営み、心身ともに健全に働ける器となるということです。

これからも、新しい発想と価値観で時代の荒波を越えていきたいと、社員一同気を引き締めております。

技術

常に新しい技術を取り入れて、変化し続けているお客様のニーズは何なのかを鋭く感じとり、追求し続けることこそが最も大事だと思っています。社会やお客様が本当に必要とする計測技術とは何なのか。どうすればさらに高いレベルにおいて皆様のお役に立てる情報サービスと新しい価値を創出できるのか。いつでもそれを問いかけ続けながら努力を重ねています。

創業来、最も得意としてきた情報化施工に関する

技術から、当社オリジナルの技術を組み合わせたセンサーを開発したり、独自の解析プログラム開発にも取り組んできました。例えば、磁歪を応用してケーブル等の張力を長期的に簡易かつ安価に計測するEMセンサーや、計測開始から現在までに生じた変位の最大値を任意の時点で取り出すことができるピークセンサーが多く現場で活躍しています。

さらに、コンクリート構造物のひび割れや中性化といった劣化状況を微破壊で検査するスティックスキャナも注目されています。近年では、特に3Dレーザースキャナを利用した情報サービスのニーズが高まっています。2007年には、3Dレーザースキャナを利用して石垣修復を支援するシステムを構築して、「国土技術開発賞 最優秀賞」、「第2回 ものづくり日本大賞 内閣総理大臣賞」を受賞しました。

また、ちょっと視点を変えた情報サービスとして、工事現場での騒音振動を監視するためのシステムであるサイレントロボも次第にニーズが高くなってきています。この他にも、当社では固定概念に縛られることなく、より高次元での情報サービスをご提供できる

ように邁進しながら、様々な技術を保有しています。そうした取り組みの中で、WEBサイトなどを利用して技術と生活者をつなぐ情報公開業務もお引き受けしています。

学会活動

当社は、国内外の各学会へも参加しながら、多方面での交流と自らの知識を深めています。特にご紹介したいのは、SHMII-3 2007 (The 3rd International Conference on Structural Health Monitoring of Intelligent Infrastructure 2007)にて、最優秀論文賞を受賞させていただいたことです。世界各国から集まっている数多くの論文の中で、当社の発表したFSFレーザーの論文が最優秀論文賞に選ばれて大変光栄に思っています。この受賞が当社の技術を世界に発信するための基点のひとつになるものと考えています。また、こうした技術が実際の現場でしっかりと活躍できるよう、皆様と協力しながら新技術を育てる取り組みを行っています。

(文責:代表取締役社長 岡本卓慈)